

川崎久範議員

会派所属なし



若年性認知症・高次脳機能障害について

問 若年性認知症・高次脳機能障害の方への重層的支援体制において、「縦割り行政」による市の課題は。

答 現状は重層的支援体制整備事業の意識啓発・

談や、分野の狭間をお互いに埋めていくことでの包括的な支援体制がまだ不十分な状況にある。同事業に対して役割分担や連携しながらの支援体制などの具体的なイメージを持ち、それぞれの機能を、それぞれの窓口において、役割が発揮できるように属性や世代を問わない相

努めていく。

援を進めているが、結婚時の支援はない。今後、国の支援事業が活用できるか他の自治体の活用事例など情報収集し、検討していく。



矢部正平議員

会派名 自由市民議員団



車のご当地ナンバー 草加ナンバーの実現を！

問 ご当地ナンバー導入に財政負担や条件は？

答 市の財政負担はなく登録は現在約7万5千台で条件は単独市は10万台以上、複数市で5万台以上、次回の新規募集が令和9年以降でいずれにしても地域住民の合意形成が必要である。

問 複数市で条件は満たしている。令和9年まで4年あるが地域住民の合意形成の方法と今後の考えは？

答 他自治体ではアンケート調査を行っている。導入効果や課題等について情報収集をしていく。

平山杏香議員

会派名 SOKA新政議員団



結婚新生活の為の支援の施策強化を要望

問 最近、知人友人から結婚を機に住む場所を変えたという話をよく聞きますが、草加市が新婚夫婦に永く住む街として選ばれるための支援があればその内容を、ない場合は支援の充実を図ってほしい。

答 市では子ども・子育て支援に重点をおいて支

援を進めているが、結婚時の支援はない。今後、国の支援事業が活用できるか他の自治体の活用事例など情報収集し、検討していく。



金井俊治議員

会派名 草加市議会議員団



働きたくても働けない人に対する就労支援は

問 働きたくても働けない人に対し、さらに就労支援を進めるべきではないか？

答 働きたくても働けない理由については様々で複雑化している。市では、それぞれの就労支援窓口で本人の気持ちに寄り添いながら聞き取りを行う

中で、丁寧に状況を把握し、その方に最も合った就労支援を行うよう心がけている。今後は、富士市ユニバーサル就労支援センターなどの取組を参考に、関係機関や就労支援の現場との連携をさらに深めることで、就労支援の体制強化に努めていく。

平野厚子議員

会派所属なし



水害対策については 国・県に厳しく要求を

問 6月の水害の際、国管理の三郷排水機場は200m³/秒の機能があるにもかかわらず、80m³/秒しか機能していなかったと聞いている。国に厳しく要望すべきでは？

答 強く要望していく。

問 水害時、マンホールから汚水があふれ出た。

県管理の水循環センターの状況と対策は？

答 6月2日23時から3日20時までの間、満管状態での流入であったとのこと。不明水流入対策会議において情報分析や取組状況の情報共有を図っている。

田中宣光議員

会派名 自由市民議員団



広報そうかは総カラー化で 16P への変更を！

問 広報「そうか」8月20号に係る反応は。

答 カラー化したことにより情報が目に入りやすい、すっきりとしたレイアウトとなり読みやすくなったといった意見を多くいただいた。

問 総カラー化で月1回の発行、紙面は倍の16

ページへの変更を提案するが山川市長の見解は。

問 月2回の発行体制の見直し、総カラー化の取組については、市民の皆様に必要な情報をわかりやすく伝えることを第1に考え、かかるコストも考慮に入れながら検討していく。

田川浩司議員

会派名 SOKA新政議員団



災害時に行政組織の枠を超えた連携を！！

問 6月の水害は床上床下浸水、車両水没等甚大な影響があった。市民から道路冠水や浸水状況の把握、対策がなっていない等、声が寄せられた。市の対応や警察、消防、消防団と連携も不十分で、どう改善するのか。

答 体制の構築が遅れ、

消防組合等と連携が図れず課題があった。8月の台風7号対応時、災害警戒本部へ消防や警察に出席頂いた。消防団は日頃から市民の安全確保に協力頂いている。消防組合、消防団、警察と情報収集体制を構築、連携し災害対応に取り組む。

並木正成議員

会派名 SOKA新政議員団



特別支援学級の音楽教育について

問 特別支援学級の音楽教育について、今後どのように推進していくのか

答 本市では、1人1音ずつ担当する普及型のハンドベルであるトーンチャイムを活用した特別支援学級音楽交流授業を毎年小学校一校で実施している。この取組では、

プロの演奏家と音楽交流を図り、トーンチャイムの演奏を通して、感じたことを表現することや演奏の楽しさを体験し、友達と一体となる心を育てている。本事業を広げていけるよう、実施校の拡大や貸出用トーンチャイムの整備を検討する。